

平成21年度「専修学校を活用した就業能力向上支援事業」成果報告書

コース名	① 若者対象コース		
事業名	早期離職者・フリーター対象「Webオペレーター養成実践講座」		
法人名	学校法人情報文化学園		
学校名	アーツカレッジヨコハマ		
代表者	理事長 中村 孝雄	担当者 連絡先	副校長 四方 智治 Tel 045-324-0011
1. 事業の目的			
<p>急速な成長を遂げているインターネットビジネス。ほとんど全ての企業がWebサイトを持つに至り、その効果は非常に大きなものとなってきた。それに伴い、Webサイトの制作、運営更新業務の重要性も大きくなっている。しかし、必要とされる知識・技術を有する技術者は不足しているのが現状である。</p> <p>そこで、早期離職者・フリーターを対象として、当該分野の技術者であるWebオペレーターを短期間で養成することを本事業の目的とした。そして、Web制作会社と連携し、受講者が未経験者であっても短期で習得できるよう、本当に必要とされる知識・技術だけに絞り込んだカリキュラムとテキストを開発、企業実習を含めた実践的講座を開設することとした。</p> <p>講座開設に当たり、Webオペレータースキル認定試験合格者67%以上を設定し、本講座の成果目標とした。</p>			
2. 事業の実施に関する項目			
①カリキュラムの概要（目的・科目数・内容・期間）			
<p>本講座は、習得スキルをWebオペレーターに絞り込み、実習中心の講座で作業を繰り返し行い、短期間で着実に業務レベルのスキルを身に付けさせるカリキュラムとした。さらに、企業実習も取り入れることで、実務の経験ができる実践型の講座とした。併せて、就職支援と受講者のメンタル面に対する講座として、交流分析の手法を用いた自己分析をするキャリアコンサルティング講座を実施した。</p> <p>また、講座および企業実習修了後、受講生の能力測定のために、Webオペレータースキル認定試験（筆記と実技）を実施した。</p>			
<p>●開設講座数 : 1講座</p> <p>●総授業時間数 : 135時間</p> <p>●開設期間 : 平成21年10月28日～平成22年2月4日</p>			

(内訳)

<専門分野>

Web 講座 1 0 5 時間
企業実習 1 5 時間

<支援講座>

キャリアコンサルティング講座 1 5 時間

上記の他、Web オペレータースキル認定試験を筆記と実技を合わせて、7 時間実施した。
また、キャリアコンサルタントによる面接を 1 回実施した。

②受講者の募集方法（手法・期間・効果）

受講者募集に当たっては、主に下記の方法を用いて行った。

1. 本講座専用 Web サイト（9 月 1 日よりサイトアップ）
2. ハローワークへの講座案内設置及びポスターの掲示（9 月 8 日～10 月 12 日）
3. 若者就職支援施設への講座案内設置及びポスターの掲示（9 月 7 日～10 月 12 日）

応募状況は定員 15 名のところ、26 名の応募があった。講座案内の入手場所、紹介施設別にみると、ハローワークから 18 名、若者就職支援施設から 6 名、その他から 2 名である。

書類審査及び面接を行い、パソコンの基本スキルと受講の意思を総合判断し、受講対象者を 9 名としたが、1 名の辞退者があったため、講座開講時には 8 名となった。ほとんどの受講生が応募に当たり Web サイトでカリキュラムやスケジュール等を確認している。

③受講者の状況

受講者 8 名の内訳は下記のとおりである。

女性が 6 名、男性が 2 名、年齢層は 20 代が 6 名、30 代が 2 名である。

講座申込時点では全員離職者であった。それぞれの前職は、一般事務 3 名、DTP、CAD オペレーター 2 名、その他の職種 1 名、アルバイト 1 名、就職未経験者 1 名である。

PC スキルは WindowsPC のみの経験者が 4 名、Mac のみの経験者が 2 名、両方の経験者が 2 名である。Mac 経験者は画像処理ソフトを経験しているが、WindowsPC のみの経験者は事務処理ソフトを使用しており、画像処理系ソフトは未経験であった。

ホームページ作成の経験は、未経験者が 4 名、遊び程度の経験者が 2 名であった。

④受講者の意識調査等

受講者満足度は下記のとおり、受講者全員が本講座を満足しているという結果となった。

大変満足：4 人（50%） 満足：4 人（50%） 普通：0 人

不満：0 人 大変不満：0 人

⑤受講後の状況（修了者数・就職率）

受講者8名全員が規定の出席時間数に達したため（135時間の講座に対し、平均97.4%の出席率）、修了証と学校教育法に基づく履修証明制度の対象となる履修証明証を交付した。また、Webオペレータースキル認定試験の合格者6名に認定証を発行した。2月4日に修了した受講者全員が就職を希望している。現在、Web関連業務のアルバイトの4人を含め、正社員に向け活動中である。

3. 事業の評価に関する項目

①当初目的の達成状況

受講者満足度は、満足以上の回答が100%であり、受講後の能力測定のためのWebオペレータースキル認定試験の合格者も75%（設計段階での合格率は67%）となったため、講座の目的は達成した。

②事業の成果及び改善点

主な成果は下記のとおりである。

1. Webオペレーター養成のための短期実践講座カリキュラム、テキストを完成させた。
2. 交流分析を用いた就職支援講座のカリキュラム、テキストを完成させた。
3. 受講者8名全員が規定の出席時間数に達したため（平均97.4%の出席率）、修了証と学校教育法に基づく履修証明制度の対象となる履修証明証を交付した。
4. Webオペレータースキル認定試験の合格者6名に認定証を発行した。
（A+ランク 1名、Aランク 3名、Bランク 2名）
5. 企業実習、スキル認定試験を含めた講座を産学共同で実施する運営方法を確立した。

Webオペレーター養成実践講座カリキュラムについては、スキル認定試験の結果から見ると、必要知識、技術の習得を達成できたのであるが、短期講座であるが故に、経験値の面では課題とされる。仕上がりのスピード向上は経験によるものであり、仕事に対する自信も経験によるものである。繰り返し実施する実習や企業実習の実施日数が課題となる。また、就職支援講座についても時間数の改善が必要である。自己分析から、履歴書、経歴書、面接の指導を余裕を持って、繰り返し実施することで、さらに効果が上がると思われる。

③次年度以降における課題・展開

本年度はWebオペレーターの養成プログラムを開発したが、平成22年度はその上位工程の技術者であるWebディレクター養成講座の開発をし、本年度のカリキュラムと併せて、Web技術者養成講座を体系化させる。今回の受講生が得たものはWebサイトのオペレーション能力であるが、次のステップとして必要になるものが「ディレクション能力」である。サイト制作の技術・知識にプラスして、クライアントに対するコミュニケーション能力、企画提案、折衝能力、PHP等のWebプログラムの知識等の有無が問われる。Webディレクターの存在があつて初めて規模の大きな案件が仕事として確立されると言われる。そこで、次年度はこのディレクション能力にスポットをあてた教育プログラムを開発す

る。また、内容がより高度に、そして実践に近いものになるため、本年度と同様、産学共同での事業実施を計画している。また、この事業を通して蓄積されるノウハウは、本校の本科課程や社会人講座のカリキュラムに活かして行きたい。

④成果の普及

開発した教材・成果報告書を、本校と同様の課程を有すると思われる専門学校、47都道府県の100校に配布した。また、3月4日に崎陽軒本店6F1号会議室において40人を集めた成果報告会を開催した。

なお、本事業のために開設したHPのURLは下記のとおりである。

[http:// www.kccollege.ac.jp/web_koza/index.html](http://www.kccollege.ac.jp/web_koza/index.html)